

園だより



# ひなぎく

令和4年1月28日

子どもたちに「本物」を

園長 渡邊 博典

毎日伝えられる新型コロナの情報、今後どのように感染者数のグラフが変化するのか、不安の中で2月を迎えようとしています。本園におきましても感染防止対策をさらに強化し、外遊びでもマスク着用を心掛け、保護者の送迎時の出入り制限もお願いしている状況です。ご不便をおかけしますが、しばらくの間ご理解・ご協力をお願い致します。

さて、今月はまん延防止等重点措置前の7日にプラネタリウム見学、11日にお茶会を予定通り実施し、年長さんにとっては貴重な体験を積むことができました。興味をもったものにじ〜っと集中して観察する子どもたちの姿は真剣そのものでした。幼児期から「本物」を観る、「本物」に触れるという体験は、個性や能力の伸長に欠くことのできないものと感じます。

私事になりますが、絵心のない私は大人になるまで美術館に足を運んだことがなく、社会人になって初めて上野の美術館に誘われて行くことになりました。その時の感動は今でも鮮明に覚えています。重厚な額に収められた絵画の迫力に圧倒され、しばらく作品の前から離れられませんでした。以来、旅先の小さな美術館にも興味をもって足を運ぶようになりました。また、今から20年ほど前に市川の現代産業科学館（当時、千葉県にある唯一の科学館でした）に勤務していた私は、科学の興味深い事象や産業振興に役立った実物を多く見ることができ、毎日がとても新鮮で、発見の連続でした。その当時、年に1度「科学の祭典千葉大会」が開催されていました。様々なブースで科学実験が行われ、参加した児童・生徒たちは生き生きとした様子で活動していました。まさに「百聞は一見に如かず」です。

今回のプラネタリウム見学やお茶会の体験は、園児たちの好奇心を高め、本物の刺激を与えてくれたのではないのでしょうか。現在はコロナ禍で出かけることも自由にできませんが、3歳から5歳は生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切な時期、子どもの成長を止めることはできません。今の生活の中で、「本物」に触れるチャンスを見つけながら子育ての一助にしていきたいものです。

## 【連絡】

口座振替について準備が整いましたので、別紙にて連絡させていただいた通り、2月の振替日より、アフタヌーンスクールや預かり保育（早朝、臨時、延長）等の料金を保育料と一緒に引き落とさせていただきます。なお2月以降、アフタヌーンスクールを変更・休会する場合は早めにご連絡ください。今後、園の集金を口座振替で進めていきますのでご理解・ご協力をお願い致します。